

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 「授業」第一主義 (G r i t) 「生徒」至上主義 (G r o w t h) 「地域」尊重主義 (G l o b a l) |
|--------|--|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 基礎的・基本的な学習内容の徹底を図る学習指導の実践<br>2 生徒の豊かな心の育成を基にした、健康で安心・安全な学校生活の推進<br>3 地域等との双方向のコミュニケーションを基にした、コミュニティ・スクールとしての成長<br>4 信頼される教職員の資質向上研修の充実 |
|------|--|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|   |   |              |
|---|---|--------------|
| 達 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
| 成 | B | 概ね達成 (6割以上)  |
| 度 | C | 変化の兆し (4割以上) |
|   | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学校自己評価 |   |   |   |  |  |     | 学校運営協議会による評価  |  |
|--------|---|---|---|--|--|-----|---|--|
| 年度目標   |   |   | 年度評価  |  |  |     | 実施日令和5年1月31日  |  |
| 番号     | 現状と課題   | 評価項目  | 具体的方策   | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善策   | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等  |
| 1      | 【現状】<br>○令和3年度全国学力・学習状況調査及び令和元年度さいたま市学習状況調査では、国語・数学ともに市の平均正答率と比べ、課題がある状況である。<br>○授業に関しては、落ち着いて取り組んでいる。しかし、基礎学力及び確かな学力の定着に結びついていない。<br>【課題】<br>○令和3年度全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語においては「読む能力」、数学については「見方や考え方、知識・理解」に関する学習内容が課題である。<br>○学習内容の基礎・基本の定着が課題である。<br>○家庭学習の定着が課題である。   | ・学習内容の基礎・基本の定着<br>・学習に対する達成感・成就感の経験                             | ①T T・少人数指導を活用し、個に応じた指導を実施する。<br>②スタディサブリを活用し(学校・家庭)、基礎学力の定着と家庭学習の定着を図る。   | ①学校生活アンケート(生徒)の学習に関する質問で、肯定的な回答が86%以上となったか。<br>②学校生活アンケート(生徒)の家庭学習に関する質問で、肯定的な回答が82%以上となったか。                         | ①T Tやスクールアシスタントを活用し、きめ細やかな指導を行った。その結果、生徒のアンケートで肯定的な意見が83%であった。<br>②家庭でのスタディサブリの活用が不十分であった。その結果、生徒のアンケートで肯定的な意見が42%であった。  | C   | 【課題】<br>○予習・復習を含めた、家庭学習の定着を図らなければならない。<br>【改善策】<br>○宿題やタブレット端末など様々なツールを活用し(学校・家庭)、基礎学力及び家庭学習の定着を図る。   | ○生徒の落ち着いた授業態度に先生方の普段の努力を感じることができた。<br>○基礎学力向上のために、生徒同士の教え合いなどの活用が必要。<br>○ワークの確認など、定期テストごとではなく、短い間隔で確認し、家庭学習の定着を図ることが必要。また、宿題やワークなど繰り返しの学習ができるような工夫が必要。<br>○予習・復習など家庭学習の取組方法の徹底が必要。 |
| 2      | 【現状】<br>○令和3年度学校生活アンケート(生徒)において、「いじめや差別をすることなく、思いやりの気持ちをもってみんなと協力し、学校生活を送っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、98%であった。<br>○令和3年度学校生活アンケート(生徒)において、「安全に気を付けた学校生活をしていますか」、「健康に気を付けた学校生活をしていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、97%であった。<br>【課題】<br>○学校に足が向かない生徒に対しての、受入態勢と学習室等の整備が十分ではない。<br>○生徒の安全への意識の向上と危険予知・回避の能力を育成していかなければならない。 | ・生徒一人ひとりへの細かな教育支援・相談に向けた校内体制の充実<br>・教育環境・学習環境の整備及び、生徒の安全への意識の向上 | ①担任・さわやか相談員・スクールカウンセラー等の連携を強化し、生徒一人ひとりへの支援体制の整備と強化を行う。<br>②教育支援・相談に係わる校内組織を整備し、きめ細やかで組織的な支援・援助を行う。                                | ①学校生活アンケート(生徒)の生活に関する質問で、「そう思う」の回答が77%以上となったか。<br>②学校評価に係るアンケート(保護者)で、教職員の対応に関する質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。               | ①生徒一人ひとりに、個に応じた寄り添った指導を行った。その結果、生徒のアンケートで「そう思う」の回答が72%であった。<br>②相談体制や校内組織の改善により、生徒・保護者に寄り添った指導を行った。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が81%であった。  | B   | 【課題】<br>○より一層、個に応じた支援と連携のとれた指導の徹底を図らなければならない。<br>【改善策】<br>○生徒一人ひとりの豊かな心の育成を図り、安らげる学校づくりを行っていくために、校内組織の強化を図る。  | ○「やりとり帳」の取組は、大変だと思うが、すばらしいと思う。<br>○各学年の先生が、チームとしてまとめ、生徒の育成指導に取り組んでほしい。<br>○引き続き、相談体制を充実させ、生徒の心のケアを行ってほしい。<br>○生徒の悩みの背景にあるものもアドバイスできるとよい。<br>○各家庭や地域で支援できることがあれば検討していきたい。           |
| 3      | 【現状】<br>○令和3年度に学校運営協議会を立ち上げ、「めざす生徒像」について熟議を重ね、「豊かな絆(地域・郷土)・豊かな知(学力・判断)・豊かな心(挨拶・自尊尊重)・豊かな体(健康・体力)」で、地域を担える生徒を地域全体で育成していくことを共有した。<br>【課題】<br>○令和4年度は、令和3年度に共有した「めざす生徒像」を家庭・地域等に広め、馬宮の地域に根差した学校づくりに努めなければならない。また、生徒に身に付けさせたい力について、さらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組をしていかなければならない。  | ・生徒の姿を地域全体で共有する教育活動の展開<br>・生徒の地域活動への参加及び地域人材を活用した教育活動の推進        | ①ホームページ及び学校だよりを活用し、学校運営協議会及びS S Nの情報を発信し、めざす生徒像等を広く共有できるようにする。<br>②学校行事・学校公開を活用し、生徒及び教職員の活動を広める。                                  | ①学校評価に係るアンケート(保護者)で、「教育活動の積極的な公開を行っている」の質問で、肯定的な回答が85%となったか。<br>②学校評価に係るアンケート(保護者)で、「めざす生徒像」に関する質問で、肯定的な回答が88%となったか。 | ①コロナ禍ではあったが学校行事において生徒の取組を公開することができた。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が94%であった。<br>②前向きに取り組む生徒が多く、めざす生徒像に向け多くの生徒が努力をしている。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が86%であった。                                   | A   | 【課題】<br>○保護者・地域に、生徒・教職員の取組を積極的に公開し、学校運営を周知していかなければならない。<br>【改善策】<br>○学校の活動を保護者・地域に広め、保護者・地域と一体となって、生徒を育てていく。  | ○学校や地域の取組の情報を積極的に発信してほしい。<br>○ホームページがスマートフォン対応で手軽に見られるようにすれば、より学校の取組を周知できる。<br>○先生、生徒が可能な限り地域交流をしてほしい。<br>○地域の活動に、中学生が活躍できるチャンスを考えて、提案できるように努めたい。                                  |
| 4      | 【現状】<br>○情報端末をはじめとしたI C T機器の活用方法等について研修を重ね、教師の指導方法の改善と指導力向上に努めている。<br>○計画的に服務に関する研修を行い、教職員の資質向上に努めている。<br>【課題】<br>○I C T機器の効果的な活用について、教職員の指導方法に格差を生じさせない取組が必要である。<br>○より一層、教職員一人ひとりの意識の向上に努めなければならない。   | ・信頼される教職員を目指した、指導力向上研修、服務研修の実施及び教職員一人ひとりの意識改革の推進                | ①年間を通じて、情報端末等の活用方法について、エバンジェリストを中心とした校内研修を実施する。<br>②教職員一人ひとりが学習指導(指導方法)や生徒指導・教育相談(生徒・保護者対応)について校内研修を実施する。<br>③各学期に服務等に関する研修を実施する。 | ①全ての教職員が情報端末を活用した授業を実施することができたか。<br>②学校評価(教職員)で、「学習指導及び生徒指導」に関する質問で、肯定的な回答が90%となったか。<br>③全教職員が服務に関しての意識の向上が図れたか。     | ①全ての教職員が情報端末を用いて授業を行い、市教育委員会の指導訪問にて研究授業を行い、指導を受け、日頃の授業で活用することができた。<br>②指導方法・生徒指導体制の改善により、学校評価(教職員)において、肯定的な意見が、学習指導95%、生徒指導100%であった。<br>③倫理確立研修会を通して、全教職員の服務等に関する意識の向上が図られた。 | A   | 【課題】<br>○I C T機器の効果的な活用について、教職員の指導方法を改善及び充実させる必要がある。<br>○より一層、教職員一人ひとりの資質の向上に努めなければならない。<br>【改善策】<br>○I C T機器の活用を含め、指導方法を工夫・改善し、「分かる授業」を目指し、個々の教師の指導力向上に努めている。<br>○研修の目的を明確にし、教職員の資質向上に努めていく。 | ○先生方が熱心に指導をされている。<br>○生徒指導に関して、より一層指導方法を改善してほしい。   |